

受章おめでとうございます

春の叙勲・危険業務従事者叙勲の受章者を紹介します。

春の叙勲

瑞宝単光章（消防功勞）

金井田 強さん

（御厨・前田、79）



昭和44年9月に地域住民の要望に
応えて鷹島村消防団に入団し、旺盛
なる責任感と積極的な実行力を発揮
し、災害現場、訓練の場においても
若手団員の指導育成に力を注がれま
した。

昭和52年に副分団長、昭和58年に
分団長に昇進し、常に率先垂範して
消防の任にあたられ、40年6月の永
きにわたり消防団員、消防団幹部と
して活躍されました。

所属分団が離島であり、本土から
の応援体制が容易でないため、火災
予防や初期消火などの効果を特に重
視され、火災想定訓練の実施に寄与
されました。

危険業務従事者叙勲

瑞宝単光章（防衛功勞）

尾崎 一徳さん

（御厨・西木場、61）



昭和47年3月、陸上自衛隊に入隊
以来約36年の永きにわたり旺盛な責
任感と積極的な職務の遂行で自衛隊
の充実発展に尽力されました。

陸上幕僚監部において、各国に駐
在する防衛駐在官の連絡係として職
務に奨励され、公募員として後輩隊
員の指導育成に尽力されました。

特に、西部方面普通科連隊の韓国
語語学訓練教官として抜群の語学能
力と卓越した教育技法により、語学
教育を整備して定着化を図るととも
に語学要員を養成して連隊の離島対
処能力の向上に大きく貢献されるな
ど、等方面隊の隊務運営に大きく寄
与されました。

瑞宝単光章（防衛功勞）

町田 重実さん

（今福・北東3、61）



昭和47年4月、海上自衛隊に入隊
以来36年の永きにわたり旺盛な責
任感と積極的な職務の遂行で自衛隊の
能力発揮に尽力されました。

佐世保警備隊佐世保港務隊（海上
員）として、日夜厳しい勤務に精励さ
れ、艦艇の出入港支援、施設の警戒
監視、弾薬庫警備、洋上流失油回収
作業、不発弾処分などの実施のため、
日々安全確実な練成に努め、地方隊
の艦艇、陸上部隊の後方支援に大き
く貢献され、警備に関する豊富な経
験と優れた専門的知識・技能をもつ
て若年隊員に対する技術指導および
各種教育を実施するなど隊員の知識、
技量向上に大きく寄与されました。

宮城県から感謝状

東日本大震災の復興支援のため、
1月から松浦市職員の高松亮さんが
宮城県石巻市へ派遣されています。
この派遣による被災地への貢献と功
績に対し、宮城県知事から松浦市に
対して感謝状が贈られました。

石巻市には全国から約200人が
派遣されており、高松さんは財務部
市民税課に配属されています。

市役所で5月1日、高松さんは派
遣状況の報告をしました。高松さん
は、「石巻市の皆さんは明るく前向き
な人が多く、市民税に関する仕事は
松浦市で2年間経験していたことも
あり、安心して取り組んでいます。

これからも自分の経験を活かして石
巻市へ貢献し、また、石巻市で得ら
れたものを松浦市へ還元できるよう
に頑張りたい」と話しました。



Sakura and Seasons of Change —桜と移り変わる季節—



ブレンダン・ピアス
Brendan Pierce
アメリカ出身

年度が変わると多くの変化がありますね。中には悲しいこともあります。変化し続ける人生を象徴していると思います。子どもたちも成長するにつれて、精神的にも物質的にも変化を経験します。学習内容も難しくなるし、親からも少しずつ離れていきます。時には困難なこともあります。またこの時期、とても興味深い変化が日本の学校にあると気づきました。

日本では、桜の開花が春の訪れを表します。人生も短くて貴重なように、桜もほんの短い期間だけ花を咲かせ、ゆっくりと地面に落ちていきます。この桜のイメージには、人生は短くて美しいということに深く繋がっていて、桜の木の葉さえも落ちて、次の新しい命へと繋がっていきます。日本の子どもたちは、この季節に学校を卒業し、新しい生活が始まり、春が新しい冒険をもたらすという

感覚があります。夏に学校を卒業するアメリカの子どもたちと比べると、春に卒業するということはもっと美しい意味を感じます。

日本の学校では、生徒ばかりではなく、多くの教師も新しい学校に転勤になり、新しいつながりを作っていきます。教師の皆さんも、長い間成長を見守ってきた子どもたちを残していくことは辛いと思いますが、この経験は教師にとっても、生徒にとっても大切な人生のレッスンだと思います。私も親しくなった先生方と会えなくなることは寂しいです。

今年の春、いろいろな変化を体験した皆さん、皆さんの幸運を心から願っています。



▲私と中野先生。中野先生は上志佐小学校から長崎市の小学校へ異動になりました。



きらポン

図書館の おすすめ本

市立図書館
☎ 0956-72-4677

松浦市ホームページで
「松浦市立図書館」を検索



『鬼談』

京極夏彦 / 著
株式会社 KADOKAWA

昔話の鬼は赤であったり青であったりします。では、人の心の間に鬼は存在するのか、人が鬼と変わるのか・・・そこに見え隠れする鬼の色は何色でしょうか？感情を持つ生き物であるがゆえの宿命がもたらす“鬼”の物語で雨の日のひと時をお楽しみください。



『わたしのかさはそらのいろ』

あまみきみこ / さく 垂石真子 / え
福音館書店

なくした傘のかわりに買ってもらったのは空色の傘。雨の日に晴れた日の“そらのいろ”の傘をさした女の子は不思議な出来事に出会います。人も動物もみんなの気持ちが温かくなるような雨の日のお話です。

◆◆◆あかちゃん・子どものお気に入り◆◆◆

このコーナーでは図書館に来てくれたあかちゃんや子どもたちのお気に入りの一冊を紹介します



今福町滑栄免の津田沙希ちゃん (3歳)

【お気に入りの本】

『きかんしゃトーマスのさかなつり』 ウィルバート・オードリー / 原作 ブリット・オールクロフト (トーマス) Ltd. / 写真 ポプラ社

【お母さんからひとこと】

いつも図書館に行くと「トーマスを借りる！」と言ってトーマスの本が置いてある本棚に向かって歩いていきます。たくさんの種類の本があり、図書館に行くのを楽しみにしています。おはなしの部屋に置いてある手作りの布絵本やぬいぐるみがお気に入り、手にとっては遊んでいます。これからも本が好きな子に育ってほしいと思っています。

※図書館ではお父さんやお母さん、あかちゃんの来館もお待ちしています！